

令和5年度 家政学部 後期授業アンケート結果の講評

講 評 者

ライフスタイル学科長：丹羽誠次郎

管理栄養学科長：竹村ひとみ

こどもの生活学科長補佐：宮武里衣

〔1〕アンケート実施について

後期授業 14～15 週目に家政学部全科目について授業評価アンケートを実施した。

アンケート回収率については下記の通りであった。

	実施率(%)	回答率 (%)
家政学部（全体）	94.4	77.7
ライフスタイル学科	86.7	75.8
管理栄養学科	100	82.9
こどもの生活学科	93.0	75.2

〔2〕授業における教員に対する評価

〔質問項目〕

質問1. 教員は授業時間分の学修内容を実施していた。

質問2. 教員の説明は明確で理解しやすかった。

質問3. 教員は質問や相談ができるように配慮していた。

質問4. 教員は学生の理解を確かめていた。

質問5. 教員は、学生が pisa 型学力（知識の獲得・活用・解決）と社会人基礎力を発揮できる授業を展開した。

質問6. 教員は、学修内容を明確にし、シラバスに一致した授業方法（グループワーク、グループディスカッション、発表、小テストの実施等）を実施した。

質問7. 教員は、授業の成績評価基準を明確に説明していた。

質問8. 教員が作成した予習・本時・復習シート（PCR シート）は、学修内容の理解に役立った。

質問1-8の選択肢：「5 強くそう思う」「4 ややそう思う」「3 どちらともいえない」「2 あまりそう思わない」「1 全くそう思わない」

〔アンケート結果〕

	家政学部（全体）	ライフスタイル学科	管理栄養学科	こどもの生活学科
質問1	4.25	4.16	4.47	4.18
質問2	4.14	3.97	4.35	4.16
質問3	4.20	4.09	4.41	4.17
質問4	4.17	3.99	4.38	4.17
質問5	4.16	4.02	4.37	4.15
質問6	4.18	4.02	4.41	4.14
質問7	4.15	4.00	4.33	4.14
質問8	4.08	3.92	4.24	4.10

質問1～8 授業における教員に対する評価について

〔ライフスタイル学科〕

「授業における教員に対する評価」はおおむね 4.0 ポイント前後を得ている。これは前学期（2023 年度前期）から全体に 0.1 ポイント程度の改善傾向を示している。ただし依然として全項目において他学科の平均値に及んでいない。また質問項目別では質問 8「教員が作成した予習・本時・復習シート（PCR シート）は、学修内容の理解に役立った」が、前回より 0.07 ポイント高くなっているが、教員に対する評価に関する設問中で最もポイントが低い。授業への取り組みの見直しと教材の充実を引き続き学科教員に求めたい。

〔管理栄養学科〕

「授業における教員に対する評価」について概ね良好な評価を得た。同年前期と同程度か若干高い評価を得た。中でも、質問 1「授業時間分の学修内容の実施」質問 3「質問や相談ができるような配慮」質問 6「シラバスに沿って学修内容を明確した授業への取り組み」が高い評価を得ており、大半の学科教員が実践していると言える。一方、質問 8「PCR シートは、学修内容の理解に役立った」がやや低評価であったことから、受講生にとって学修内容の理解に役立つ PCR シートに改善していくことが必要である。

〔こどもの生活学科〕

すべての項目で 4.0 以上であり、学科の教員の授業に関する評価は全体的に低くないと考えてよいと思われる。特に、学科内に学力差の幅がある学年もあるため、「質問 4. 教員は学生の理解を確かめていた」については注目すべきであるが、これを見る限り他の項目と同程度であるので、学科の特性に合った指導がされていると考えている。

〔3〕学生自身の学修に対する評価について

質問 9. あなたは、予習・本時・復習（PCR シート）に記載されている社会人基礎力の能力を発揮して、予習・復習に取り組んだ。

質問 10. 毎週シラバスの学修内容を確認して、予習（課題・レポート含む）を実施した。

質問 11. 毎週シラバスの授業内容を確認して、復習（課題・レポート含む）を実施した。

質問 12. 予習をすることで学修内容への理解が深まった。

質問 13. 復習をすることで学修内容への理解が深まった。

質問 14. この科目に対して予習（事前学修）時間をどのくらい費やしましたか。平均した 1 回当たりのおよその時間（10 分単位程度で）で答えてください。

質問 15. この科目に対して復習（事後学修）時間をどのくらい費やしましたか。平均した 1 回当たりのおよその時間（10 分単位程度で）で答えてください。

質問 16. シラバス記載の学修の到達目標が達成できた。

質問 17. この授業は、あなたにとって総合的に有意義で満足できるものであった。

質問 18. 教員からの学修支援に満足している。

質問 19. あなたは、この授業を通してシラバスの「科目の概要」に記載されているディプロマポリシーに到達した。

★質問 9-13、16-19 の選択肢：「5 強くそう思う」「4 ややそう思う」「3 どちらともいえない」「2 あまりそう思わない」「1 全くそう思わない」

★質問 14、15 の回答：記述式（数値入力）

〔アンケート結果〕

	家政学部（全体）	ライフスタイル学科	管理栄養学科	こどもの生活学科
質問 9	4.07	3.91	4.25	4.06

質問 10	4.02	3.88	4.21	4.02
質問 11	4.02	3.88	4.18	4.05
質問 12	4.08	3.91	4.27	4.07
質問 13	4.10	3.94	4.30	4.08
質問 14	55.63	36.59	60.96	68.46
質問 15	60.75	40.63	73.45	69.64
質問 16	4.03	4.00	4.15	4.02
質問 17	4.17	4.11	4.36	4.14
質問 18	4.17	4.12	4.36	4.15
質問 19	4.03	3.99	4.16	4.03

質問 9～19 学生自身の学修に対する評価について

〔ライフスタイル学科〕

「授業における教員に対する評価」同様に「学生自身の学修に対する評価について」もすべての項目において3学科中、最低のポイントにとどまっている。予・復習に要している時間については依然としてシラバスで示している時間に足りていない。予・復習の時間は前学期の 50.5 分から 77.2 分に増加しているが、前・後期それぞれに開講している科目種別のバランスが関係している可能性もある（2022 年度後期は 82.2 分）。また、「シラバスの学修内容を確認」しているか、予・復習が「学修内容への理解」につながっているかへの回答結果が低いポイントにとどまっていることも問題である。予習・本時・復習シートの見直しとともに、授業時間外での学修に取り組めるよう教員側からの指示、指導を徹底していきたい。

〔管理栄養学科〕

「学生自身の学修に対する評価」について概ね良好な評価を得た。特に、質問 17「総合的に有意義で満足できる」、質問 18「教員からの学修支援」について高い評価を得た。前期同様、予習に比べ復習により多くの時間を費やしていた。平均予復習時間は、前年度後期に比べ、予習 8.9 分、復習 4.8 分増加した。一方で、質問 16「シラバス記載の学修の到達目標を達成できた」、質問 19「シラバスの『科目の概要』に記載されているディプロマポリシーに到達した」の評価はやや低評価であった。毎週シラバスを確認して授業に臨むこと、到達目標を意識した学修の重要性について周知していく必要がある。また、到達目標に達成していないと評価した学生へ向けた対策を講じる必要があると考える。

〔こどもの生活学科〕

前問の教員への評価と比べると学生自身の評価の方がポイントが下がることは気になる点である。謙虚は美德ではあるが、人を支援する職業に就くためには自己肯定感が高くないと挫折しやすい。風土として自己肯定感を低くするようなものがあるとしたら今後学科全体で改めたい。また、予習・復習の時間が 70 時間となっているが、ほとんどの学生がアルバイトをしている現状でこの時間を確保させていることを今一度教員が理解して、改善できることは改善しなければならない。

〔4 学修行動について〕

質問 20. この授業の学修行動において、必要性はあったが発揮「できなかった」能力はどれですか。（複数回答あり）

★質問 20 の選択肢：1 主体性 2 働きかけ力 3 実行力 4 課題発見力 5 計画力 6 創造力 7 発信力
8 傾聴力 9 柔軟性 10 状況把握力 11 規律性 12 ストレスコントロール力

〔アンケート結果〕

	発揮できなかった能力			
家政学部（全体）	計画力(22.4%)	ストレスコントロール力(21.7%)	創造力(18.9%)	主体性(17.6%)
ライフスタイル学科	計画力(22.8%)	主体性(22.1%)	創造力(21.6%)	発信力(21.0%)
管理栄養学科	計画力(22.7%)	創造力(21.0%)	ストレスコントロール力(20.4%)	柔軟性(19.0%)
こどもの生活学科	ストレスコントロール力(24.6%)	計画力(21.2%)	課題発見力(18.6%)	働きかけ力(17.3%)

質問 20 学生自身の学修行動に対する評価について

〔ライフスタイル学科〕

必要性はあったが発揮「できなかった」能力のうち高いパーセンテージを示していた項目中「創造力」「計画力」については前学期と同様だが、今学期はその他に「主体性」「発信力」が挙げられている。ここでの学生の回答は、学修活動に取り組む中でその能力要素をどれだけ強く意識したか、あるいは自身の目標をどれだけ高く設定したかにも関係していると考ええる。そのため「できなかった」という回答をそのまま否定的に捉えるのは早計な判断かもしれない。ただし「主体性」に関して発揮「できなかった」としていることについては学修意欲が全般的に低下している可能性もある。学生が意欲的に学修に向かうことができるような環境を整えていく必要がある。

〔管理栄養学科〕

必要性はあったが発揮できなかった能力として、上位に「計画力」「創造力」「ストレスコントロール力」が挙げた。いずれも前年度後期、同年前期に上位に挙げた能力である。毎週、各科目の課題を提示された期限までに提出するためには、優先順位を決め計画的に取り組む力が求められる。どのように進めていくべきか、常に意識して取り組むことにより、社会で求められる能力の育成に繋がると考える。一方で、前に踏み出す力「主体性」「働きかけ力」「実行力」は上位 4 項目には挙げらず、比較的多くの学生が発揮できていると考えられる。

〔こどもの生活学科〕

他の学科との比較で見ると、できなかった能力として「ストレスコントロール力」のポイントが高い。職業柄、身につけて欲しい力であるがそれができない現実があるとしたら理由を探らなければならない。人との関りの機会が多い学科であるので、コミュニケーションの機会の多さに耐えられなかった可能性もある。同じく職業との関りでいえば、課題発見力、働きかけ力などが「できている力」として挙げられるように意識づけしたい。